

魚村リフレッシュ運動

○ 漁村の現状

- ・ 狭い土地に立地していることから、都市と比べ下水道や広場などの生活環境の整備が立ち後れている。
- ・ 家屋等が密集した集落が多く、津波・火災等の災害に脆弱である。
- ・ 地域の担い手不足、高齢化の進展等に伴い地域の活力が低下してきている。



■ 狭隘な土地に立地



■ 家屋が密集し、緊急車両の通行が不可能

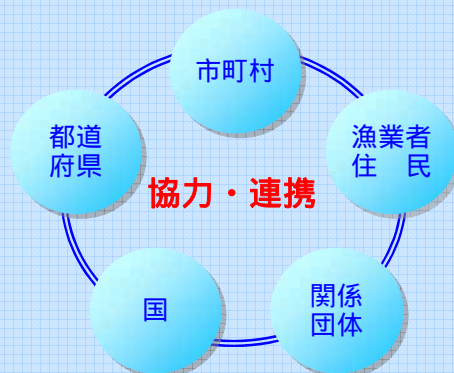


■ 生活排水のたれ流しにより赤潮が発生

● 漁村リフレッシュ運動の展開

○ 概要

漁村の生活環境の改善を積極的に推進するため、水産庁、都道府県、市町村、全漁連等関係団体、漁業者等が一致協力して「漁村リフレッシュ運動」を実施しています。



漁村の健康診断

生活環境の現状を調査し、問題と課題を整理



漁村リフレッシュ行動計画

各都道府県が10年後の目標を設定し、生活環境整備の計画を策定



普及啓発活動の展開

漁村の生活環境の整備に対する共通認識の形成



漁村の生活環境整備の着実な推進！！

● 漁村リフレッシュ行動計画

- 各都道府県が10年後（平成22年度）の整備目標を設定
- 整備目標を達成するための実施計画を策定

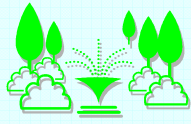
漁村の生活環境整備の積極的な推進！



消防水利充足率

火事などの発生に備える消
防用水の確保

(H11) 72% → (H22) 82%



広場・公園のある漁村

お年寄・子供達が安心して
利用できる広場・公園の整備

(H11) 42% → (H22) 50%



情報伝達施設の整備率

地震などの災害時に避難情報
を伝えるための施設の整備

(H11) 84% → (H22) 89%



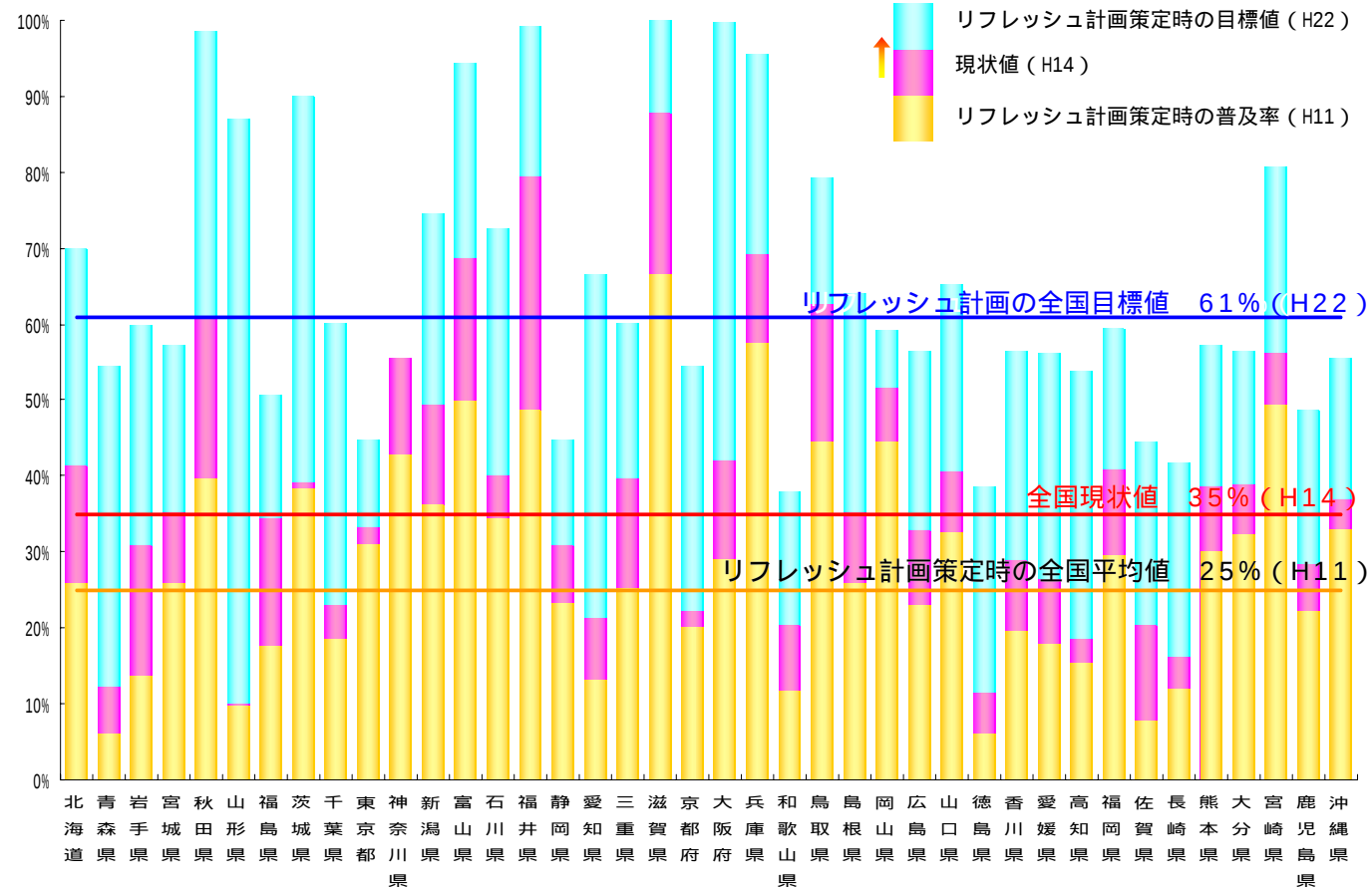
上水道普及率

衛生的で安定供給が可能な上水道の整備

(H11) 96% → (H22) 98%

● 漁村の汚水処理人口普及率の都道府県別比較

全国的には順調に推進していますが、都道府県間で格差が生じています。



自動車交通可能道率

自動車が行き来可能な幅を確保した道路の整備

(H11) 76% → (H22) 78%

特に...



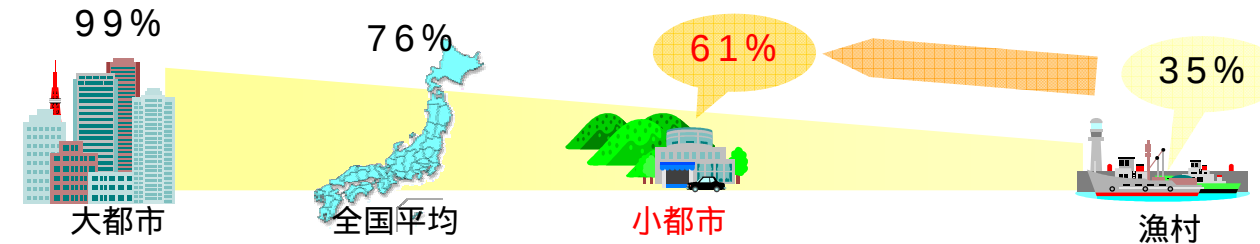
污水处理人口普及率

衛生的な生活環境の整備、漁場などの水質の保全・改善

(H11) 25% → (H22) 61%

汚水処理人口普及率（下水道）を小都市並にまで引き上げ！

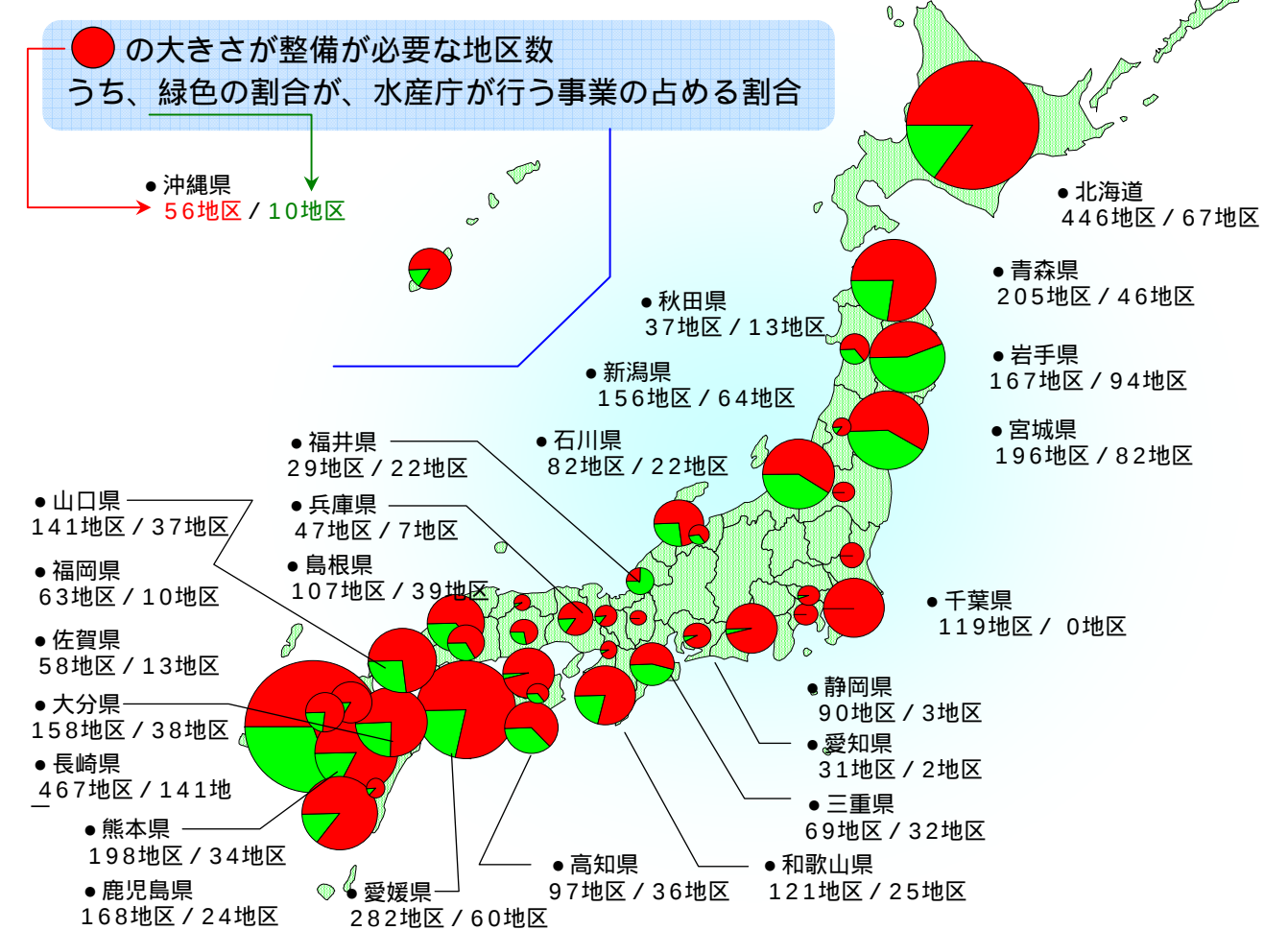
都市部の普及率は非常に高くなっていますが、人口が少なくなるにつれ整備が立ち後れています。



注) 環境省、国土交通省、農林水産省、水産庁の調べによる値

- 汚水処理施設の整備予定

整備が必要な漁村は多く、積極的な整備が必要です。



● 生活環境施設の整備による効果

- ・ 漁港、漁場環境の改善、衛生管理の向上



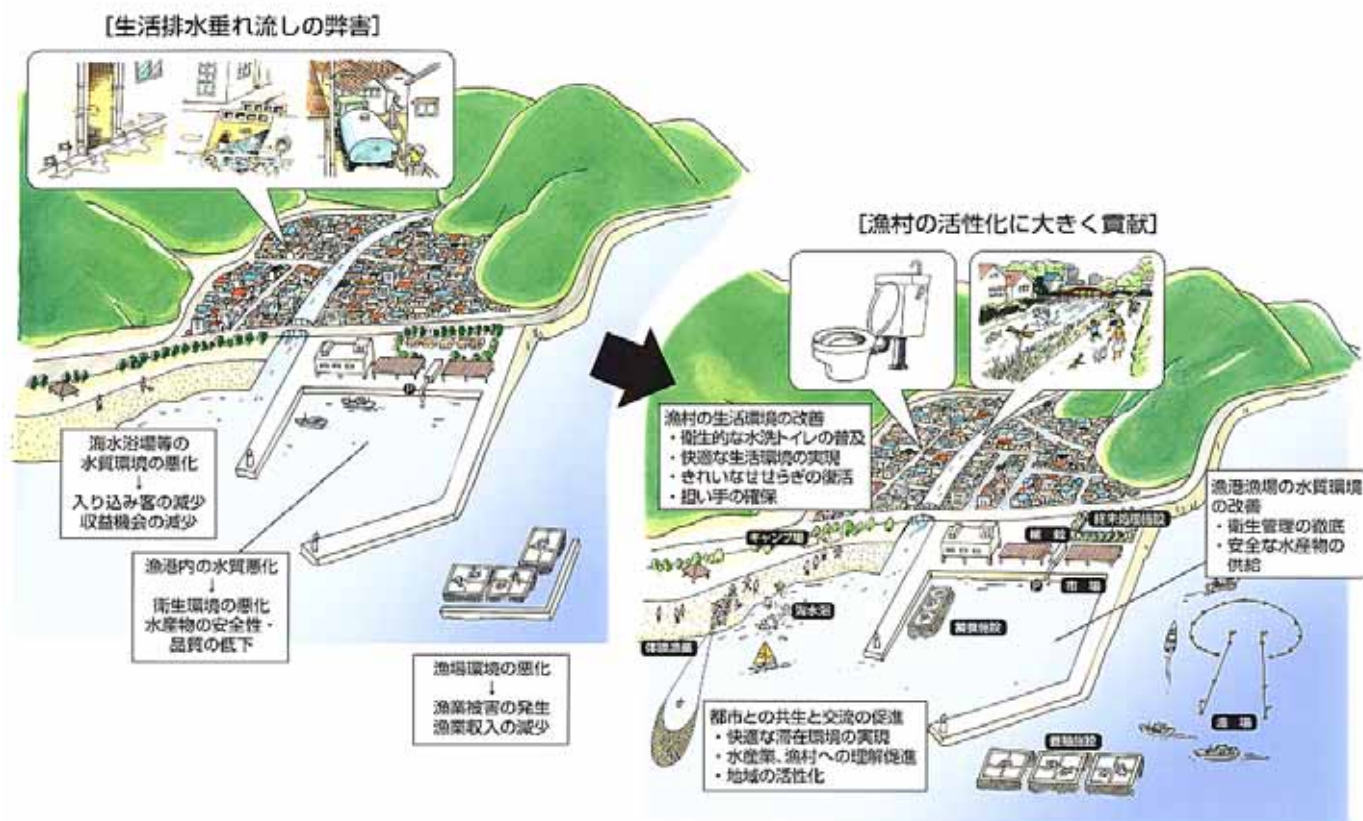
- ・ 交流の拡大（都市等からの来訪者の増加）



- ・ 快適な生活環境の実現
- ・ 担い手の確保



【污水处理施設の整備がもたらす漁村の活性化】



お問い合わせは

水産庁 漁港漁場整備部 防災漁村課 漁村企画班、環境整備班
☎ 03-3502-8111（内線7304,7305）